

国土審議会 第10回半島振興対策部会

青森県むつ市



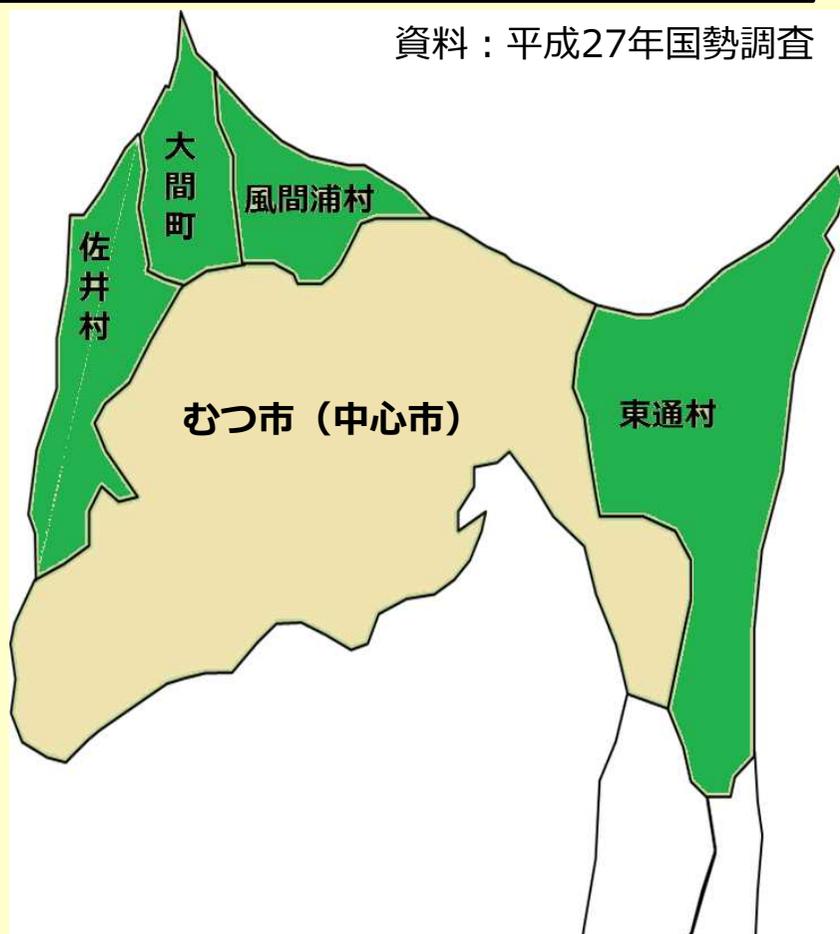
下北半島の現状

・概要

下北圏域定住自立圏

人口：74,451人 面積：1416.08km²

資料：平成27年国勢調査



むつ市（中心市）

人口：58,493人 面積：864.12km²

大間町

人口：5,227人
面積：52.10km²

東通村

人口：6,607人
面積：295.27km²

風間浦村

人口：1,976人
面積：69.55km²

佐井村

人口：2,148人
面積：135.04km²

圏域市町村の概況

本圏域は青森県の最北部に位置し、むつ市・大間町・東通村・風間浦村・佐井村の1市1町3村により構成されています。

下北半島中部の恐山や宇曽利山湖をはじめ、周囲を陸奥湾、太平洋、津軽海峡に囲まれた自然豊かな圏域です。人口は、平成27年国勢調査で74,451人であり、県人口の約5.7%を占め、面積は青森県総面積の14.7%を占めています。

むつ市のご紹介

青森県の最北部、本州最北端の下北半島に位置し、北は津軽海峡、南は陸奥湾と接しています。また、行政区域は、青森県最大の面積を占め、県全体の9%にあたります。日本三大霊場の一つに数えられる「恐山」、四季折々の美しさを川面に映す「川内川溪流」などの景勝地や、湯量豊富な「湯野川」「薬研」などの温泉が点在するほか、「陸奥湾ホタテ」「津軽海峡のイカ」などの食材が豊富にあるなど、豊かな自然の恵みを受けた地域となっています。



大間町のご紹介

青森県下北半島の先端に位置し、本州最北端の地であります。日本初の外洋フェリーボート航路である「大函丸」が対岸の函館市との間を90分で結んでいます。伝統の「マグロ一本釣り」に代表されるように、三方を海に囲まれた大間町は海産物にも恵まれています。大間のマグロと言えば、最高級マグロの代名詞となっており、知名度が高まったことにより、観光地として脚光を浴びています。



東通村のご紹介

下北半島の東側に位置し、太平洋と津軽海峡の二つの海に面しています。本州最北東端に位置する尻屋崎には、明治9年に点灯した東北最古の洋式灯台が立ち、一帯の広大な放牧地には、30頭ほどの「寒立馬」が放牧されています。冬には、寒さや風雪にじっと耐えながら黙々と草を食む姿がとても印象的です。太平洋沿岸には、南北約17kmにわたり日本最大級の砂丘「猿ヶ森砂丘」が広がっています。



風間浦村のご紹介

青森県下北半島の北部の海岸線に位置し、漁業と観光を基幹産業とする村です。寒さが厳しくなる初冬から初春にかけて、「アンコウ」が全国でも珍しく活かたまま水揚げされることから、「風間浦鮫鱈」として地域団体商標に登録されました。

津軽海峡を望む「下風呂温泉郷」は550年前の地図に湯元を記され古の時代より湯治場として栄えており、いさり火輝く津軽海峡の海の幸が堪能できるほか、昭和の文豪・井上靖、同志社大学創立者・新島襄からも愛された温泉郷となっています。

佐井村のご紹介

下北半島の西側に位置し、広く津軽海峡に面しています。地勢は、概して峻険で平坦地が少なくほとんどが山地で、多くの集落は海岸沿いに位置し、漁業を主な産業とした豊富な海の幸に恵まれた村です。

大自然に恵まれていて、雄大な景勝地「仏ヶ浦」、願をかなえるといわれる「願掛岩」、貴重な植生が残る「縫道石山」があり、地質学的にも貴重な地域です

下北半島の現状

・下北半島縦貫道路の整備状況



下北半島縦貫道路 (約68km)

- ◎平成7年度の事業着手から25年経過
 →R 1年度末の供用延長は26.6km
 (全体の約39%)
 →1年間で約1.1kmしか整備が進んでいない
- ◎下北半島縦貫道路 全線供用の効果
 - ・災害時の孤立化の防止
 - ・アクセス強化による救急医療状況の改善
 - ・地域産業の活性化 など多数

全線供用されることで下北に住む人々が、安心して暮らし地域が元気になる。

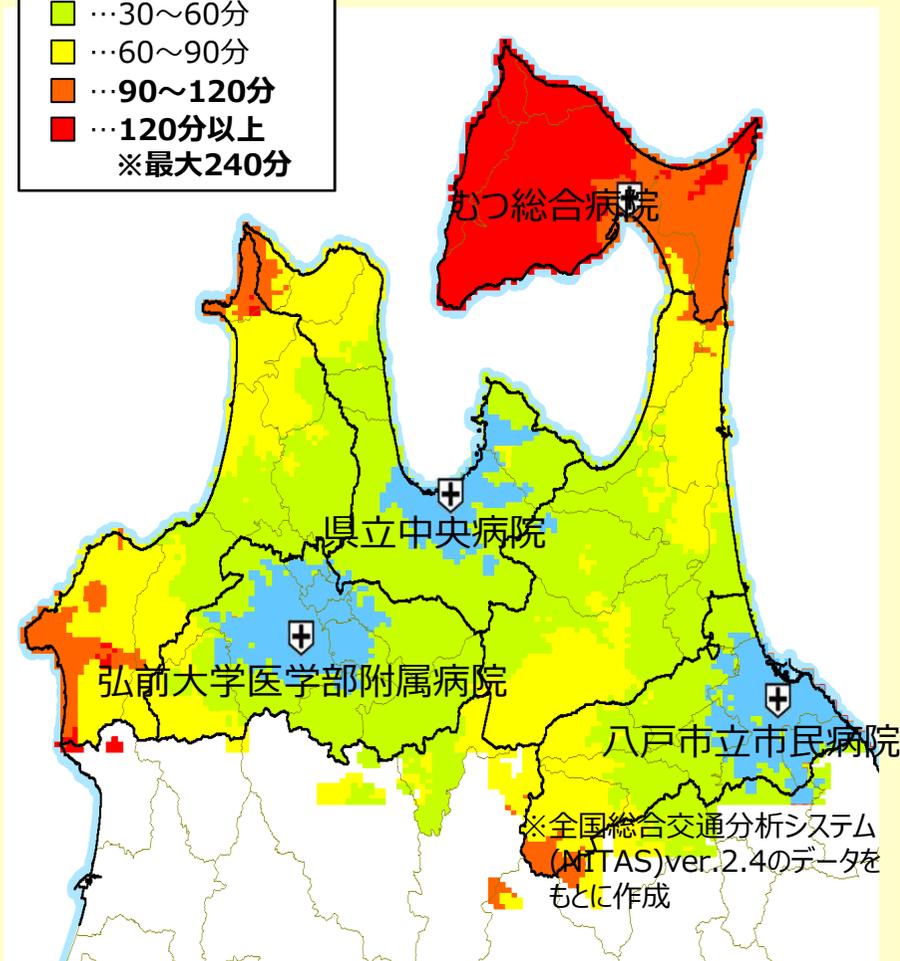
早期全線供用のため、特に次の2点が重要。

- ①事業中区間への着実な予算配分
 現在事業中の「むつ南バイパス」、「横浜北バイパス」、「横浜南バイパス」の整備が必要
- ②未着手区間の早期事業化

下北半島の現状

・高度医療までのアクセス

現 状



むつ総合病院の現状

- ✓ **二次医療を担う下北の中核病院**
しかし、
 - **救命救急センター無し**
(救命救急医が不在)
 - 平成23年7月から**心臓血管外科の常勤医が不在**
- ✓ **三次医療までのアクセスは県内で最悪**
 - **ほぼ下北の全域が90分以上**
 - **最大で240分** (4時間) 入院患者と家族の負担も。

むつ市の取組

・下北の人材育成への取組（下北Project）

ねらい

東京大学との連携によりスポーツ、教育、経済・雇用の観点から人材を育成し、東京大学から研究者・学生の派遣を通じて交流人口の拡大を図り、下北地域からは研究のフィールドを提供するという循環が構築できる。

下北からプロ選手

スポーツ環境の充実



球は片手で捕ろう
元プロ野球巨人の投手
五巨人・山田さん 高校生に指導
で、現在は東大大学院

高校生にキャッチボールを指導する山田さん（手前）

下北から東大生

教育水準の向上

下北からベンチャー

経済の活性化・雇用政策



R2.8.9 河北新報より

むつ市の取組

・下北ジオパーク再認定に向けて

■ 下北ジオパークの目的は

・下北ジオパークの目的は、価値ある地形地質など地域資源の保全を前提に、ジオパークをツールとして“郷土愛の醸成”と“地域の価値(ブランド力)を高める”ことです。

平成28年9月9日

下北ジオパーク誕生!!

再認定審査は2020年10月!!

2019年の活動



5月

バスラッピングによる下北ジオパークのPR

6月

様々場所で
清掃活動



9月

各種イベント企画、出店



10月



RUNNERS VILLAGE わきのさわ
道を資源に…下北ジオパークの見どころをランニングコースとして
モニターツアー実施



1月

下北ジオパークin上野公園



下北ジオパークin上野動物園

むつ市の取組

・むつ市のうまい！世界チャレンジ事業



〈オープニングセレモニー〉

(青森県市長会から弘前市長、黒石市長、三沢市長、平川市長も出席)



〈シンガポール大学との連携〉



〈トップセールス〉

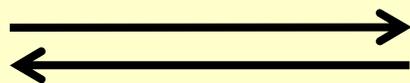
東南アジアマーケットの〈ショーケース〉、〈ゲートウェイ〉としての役割を担うシンガポールで販路開拓の足がかりを図るため、「Umai!! Aomori Food Fair 2019」を開催。商談会、レストランフェアのほか、今回は、物産と観光を連動させたイベント「Amazing AOMORI JAPAN」もGuoco Tower Floor B2 Atriumにおいて開催（11/23～24日）。トップセールスや、青森ねぶたのハネトパフォーマンスなど、地域の魅力を効果的に発信した。

下北半島のこれから

・ 国土審議会に期待すること

下北半島

- ・ ほとんどの人がその存在を知らない
- ・ 何をしてくれるのかわからない



国土審議会

- ・ 関係者がその存在を知っている
- ・ 半島の課題を知っている

立場による目線の違いが存在

半島ごとに窓口を設置し、半島に寄り添う政策が必要

全ての半島を一つにまとめ、日本の課題が世界の課題に即していくように新しい時代に合った転換により**自立**を促す

下北半島のこれから ・施策展開について

弘前大学医学部によるお出かけ診療所



ワイン用苗木輸入の規制緩和



国定公園内におけるGEOダイニング



下北半島のこれから

・むつ市産業振興促進計画

概 要

むつ市は昭和60年をピークに人口の減少、若年層の人口流出による生産年齢人口比率の減少の反面、老年人口比率の増加により少子高齢化が顕著である。

時代のニーズや地域特性に合った新たな産業の育成を図り、地域経済の活性化及び雇用機会の拡大が課題となっている。

半島振興地域における産業の発展のみならず、新たな産業の創出と育成に向けた産業振興を推進する。

実 績

半島税制利用状況

平成27年度・・・2件（製造業、旅館業）

平成28年度・・・2件（製造業、旅館業）

平成29年度・・・0件

平成30年度・・・1件（旅館業）

半島振興広域連携促進事業

平成30年度・・・332千円

※実績は平成30年度のみ

要 望

下北地域はむつ市、大間町、東通村、風間浦村、佐井村で下北圏域定住自立圏を形成しており、広域連携の事業に対する補助率の引き上げや各市町村による取組の場合においても実施可能としてほしい。

また、地方税の不均一課税の減収補填措置について製造業など対象が限られているためより幅広い業種も対象にするなど、制度の緩和について検討していただきたい。

- ・ **地域の実情を把握するため半島ごとの担当窓口の設置**
- ・ **半島ごとに特徴を活かした政策が展開できるような環境を整備**
- ・ **条件不利地域の持ち味を活かしたチャレンジができるような体制の確保**

ぜひ一度むつ市へお越しください

